2024年10月28日　北海道通信

## 釧路開建Ｔｅａｍくしろ

# 建設業の必要性伝える

### 釧路山花小中児童生徒対象に

釧路西ＩＣでは舗装されたばかりのＡランプ橋を歩いた

【釧路発】釧路開建の４事務所で構成するＴｅａｍくしろは24日、釧路市立山花小中学校の児童生徒を対象に現場見学会を開催した。担当職員らが小学２年生から中学３年生までの児童・生徒17人に事業概要や工事の方法などを説明するとともに、各種体験を通じて建設業の必要性や自然環境に配慮した取組を伝えた。

Ｔｅａｍくしろは、釧路市内に配置されている開建出先機関の釧路河川事務所、釧路道路事務所、釧路港湾事務所、釧路農業事務所の職員を中心に、ことし結成したもの。釧路管内の教育機関、生徒を対象に、学校教育との連携および地域との共創を図り、開発行政に興味を持ってもらうため活動する。

Ｔｅａｍくしろとしては初の取組となる今回の現場見学会は、本年度開通予定の道横断自動車道釧路西ＩＣと、阿寒地区における農業基盤整備事業の２現場で実施。開催に当たっては、各現場を施工する小針土建㈱（中標津、小針武志社長）とクニオカ工業㈱（弟子屈、今誠社長）などが協力した。

道横断自動車道釧路西ＩＣの現場では、はじめに道路事務所第３工務課の鶴谷孝一課長が道東道の事業経緯や現場の変遷、舗装の構造、温原における工法などについて、写真と共に紹介。Ｄランプ橋の施工については、映像を流しながら自然環境に配慮した工事であることを説明した。

また、舗装されたＡランプ橋を歩いて渡り、写真撮影などを行ったあと、メタバース体験を実施した。メタバースは、小針土建の３Ｄデータをもとに、ＩＣＴ施工やＢＩＭ／ＣＩＭ技術等を開発する㈱ネクステラス（札幌、木下大也社長）が作成・提供したもの。

仮想空間に完成後の釧路西ＩＣ周辺をつくり、ピックアップトラックが走行するレースコースに。子どもたちはコントローラーを手に、スピードを上げつつコースから外れないよう操縦した。

このあと、農業基盤整備事業の現場に移動。阿寒地区で暗渠排水工などを進めるクニオカ工業の協力のもと、農業事務所の職員が国営緊急農地再編整備事業阿寒地区の工事について整備目的や内容を説明するとともに、暗渠排水の模型を用いた解説や、ユンボやトレーラダンプなど重機の乗車体験を実施。子どもたちの生活にとって必要な事業や工事であることを伝えた。

山花小中の年代香校長は、学校のある山花地区は農地が多いことから「農地での取組については、地元を知るという面でも大変勉強になる」とした上で、高速道路の建設工事においても「普段生活する中では気が付かなかったところを、建設中だからこそ教えてもらい、見て、理解することができる。子どもたちが自然に配慮したものづくりについて考えるきっかけになる」として、開建の協力に謝意を示した。